社会科（公民的分野）学習指導案

日　時　令和８年１月 22 日（木）
第５校時　13:30～14:20
学校名
対　象　第３学年　組　　名
会　場　３階　３年　組教室
授業者

１　単元名

第４部第１章　国際社会と私たち（「中学生の公民」　帝国書院）

２　単元の目標

対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解する。その際、領土（領海、領空を含む。）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解する。
- 地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。
- 対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- 世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。その際、領土（領海、領空を含む。）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解している。 ②　地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。	①　対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	①　世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4　指導観

⑴　単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年３月告示）第２章　第２節　社会　第２　各分野の目標及び内容　公民的分野　２　内容Ｄの⑴、「３　内容の取扱い⑸ア」について取り扱ったものである。その内容と内容の取り扱いについては、次のように示されている。

２　内容
Ｄ　私たちと国際社会の諸課題
⑴　世界平和と人類の福祉の増大
対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような知識を身に付けること。
(ｱ)　世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解すること。その際、領土（領海、領空を含む。）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解すること。
(ｲ)　地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解すること。
イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ｱ)　日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。
３　内容の取扱い
⑸　内容のＤについては、次のとおり取り扱うものとする。
ア　⑴については、次のとおり取り扱うものとすること。
(ｱ)　アの(ｱ)の「国家間の相互の主権の尊重と協力」との関連で、国旗及び国歌の意義並びにそれらを相互に尊重することが国際的な儀礼であることの理解を通して、それらを尊重する態度を養うように配慮すること。また、「領土（領海、領空を含む。）、国家主権」については関連させて取り扱い、我が国が、固有の領土である竹島や北方領土に関し残されている問題の平和的な手段による解決に向けて努力していることや、尖閣諸島をめぐり解決すべき領有権の問題は存在していないことなどを取り上げること。「国際連合をはじめとする国際機構などの役割」については、国際連合における持続可能な開発のための取組についても触れること。
(ｲ)　イの(ｱ)の「国際社会における我が国の役割」に関連させて、核兵器などの脅威に触れ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育成するように配慮すること。また、国際社会における文化や宗教の多様性について取り上げること。

この中項目は、国際社会の成り立ちと変化を踏まえ、世界平和と人類の福祉の増大に向けて国家・国際機構・人々が行っている協力や取組を理解し、国際社会の課題に主体的に関わろうとする態度を育成することをねらいとする。その際、「対立と合意」「協調」「持続可能性」などの見方・考え方を働かせながら、主権の尊重、国際協力、国際機構の役割、地球的課題の解決に向けた取組を多面的に理解できるようにする。

本単元では、紛争・領土問題・国際連合の働き、環境・貧困・南北問題などの課題を扱い、ロシアによるウクライナ侵攻や中東情勢など現代的事例を踏まえて、国際秩序・主権・人権保障がどのようにせめぎ合っているのかを考察する。その上で、我が国が国際社会の一員としてどのように協力し責任を果たすべきかを構想する力を育てる。単元を貫く問いとして「国際社会の課題を解決するために、我が国はどのように協力していくべきだろうか。」を設定する。授業では、ニュース映像、統計資料、国連やNGOのデータなど実際の国際情勢を基に資料分析を行い、Tチャートや Yチャートなどの思考ツールを活用して立場や課題の構造を整理する。意見交換を通して多様な視点に触れ、最終的には「日本政府の代表として国連総会でスピーチを行う」パフォーマンス課題に取り組むこ

とで、国家の視点から国際協力の在り方を主体的に構想できるようにする。

⑵　生徒観

生徒は小学校社会科で国の働きや世界とのつながりを学び、世界の多様性や国の役割について基礎的知識を身に付けている。また、中学校歴史的分野では戦争と平和の歩みを、公民的分野「私たちと政治」では平和主義や国際協調の理念を学習し、国際的な協力の必要性を考える土台が形成されている。事前アンケートでは、「国際問題に関心がある」と答えた生徒が多かったものの、その理解は「戦争」「平和」「環境」など抽象的な語にとどまり、国名・条約・国際機関などを具体的に挙げられる生徒は少なかった。「国連」は「平和を守る機関」というイメージに偏り、実際の仕組みや活動についての理解は十分でない。「軍縮」「難民」などの概念理解も不十分であることが確認できた。自由記述では「協力」「助け合い」を重視する回答が多く、生徒が国際問題を「対立」よりも「協力して解決する課題」として捉える傾向が読み取れた。一方で、「国際問題と自分の生活の関係」を捉える視点は希薄で、自分事として理解する段階には至っていない。

これらの実態を踏まえ、具体的なニュース・国際機関の資料・統計データを用いて現実の国際情勢を理解できるようにし、調べ学習や資料選択を通して主体的な学びを促す。また、考えるための技法を活用して「核保有国と非保有国の立場」「支援と自立」などの複雑な構造を整理し、多面的に考察できるようにする。これらの活動を通して、国家の視点から国際社会における日本の役割を根拠をもって表現する力の育成を目指す。

⑶　教材観

単元観・生徒観を踏まえ、本単元では「世界平和と人類の福祉の増大」を主題に、対立と合意・協調・持続可能性といった見方・考え方を働かせながら学習を進める。日常のニュースや地域の国際交流活動など、身近な事例と世界の課題を結び付けることで、国際社会の動きを具体的に理解できるようにする。教材は、学習内容を抽象概念としてではなく「現実の姿」として捉えることができるように選択する。国連の活動映像は国際機構の役割を視覚的に理解するため、二酸化炭素排出量や難民数の統計データは地球的課題を数量的に把握するためにそれぞれ用いる。また、紛争や軍縮に関するニュース記事は国際課題の現状を実感するために取り入れ、生徒が「なぜ協力が必要なのか」を現代的事例から考えられるようにする。これらの資料は教師が一方的に提示するのではなく、生徒の関心に応じて選択し、比較・分析できるように構成する。資料選択の過程を取り入れることで、根拠を基に考えを形成する力を育成し、多様な視点の共有や合意形成につながる学びを促す。単元末のパフォーマンス課題「日本政府の代表として国連総会でスピーチを行う」では、学習した資料を根拠に、日本の立場や国際社会で果たすべき役割を構想し、自分の言葉で表現することを目指す。学習の過程を可視化するために「単元見通しシート」を活用して指導する。

５　年間指導計画における位置付け（全 106 時間）

	単元名	時数
第１学期	A　私たちと現代社会　⑴　私たちが生きる現代社会と文化の特色	８時間
	A　私たちと現代社会　⑵　現代社会を捉える枠組み	10 時間
	C　私たちと政治　⑴　人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	18 時間
第２学期	C　私たちと政治　⑵　民主政治と政治参加	22 時間
	B　私たちと経済　⑴　市場の働きと経済	19 時間
	B　私たちと経済　⑵　国民の生活と政府の役割	10 時間
	D　私たちと国際社会の諸課題　⑴　世界平和と人類の福祉の増大＜本単元＞	12 時間
第３学期	D　私たちと国際社会の諸課題　⑵　よりよい社会を目指して	７時間

６　単元の指導計画と評価計画（全 12 時間）

時間	目　標	学習内容・学習活動	評価規準 （評価方法）
第1時	単元を貫く問い：国際社会の課題を解決するために、我が国はどのように協力していくべきだろうか。		
	単元について見通しをもって、単元の課題を設定し、予想を立てる。	○　世界平和と人類の福祉の増大単元構成や単元末課題を確認し、単元見通しシートに、単元を貫く問いに対する予想と学び方の目標を記入する。	ウ－①（単元見通しシート）
小単元１　国際社会のしくみ			
第2時	学習課題「国家として認められている国とそうでない国の違いはいったい何で、その違いによって生まれる対立は、どのように解決すればよいだろうか。」		
	対立と合意に着目して、平和や経済発展のために国際法や国際協調が必要であることを理解する。	○　国連加盟国数からこの数字は何の数字なのかを話し合う。 ○　国とみなされている国とそうでない国の違いや対立・不一致が生まれた時の国際法と機関について調べて、まとめる。	ア－①（発表ノート） ウ－①（単元見通しシート）
第3時	学習課題「領土問題担当大臣として、どのように対立を解決していかなければならないか。」		
	対立と合意に着目して、領土をめぐる問題の解決にはどのような方法があるのか考察し、表現する。	○　領土で対立している国の地図から、同じ島でも国によって表記や主張が違うことを読み取る。 ○　北方領土、竹島、尖閣諸島の３つに担当を分け、双方の主張や現況について調べる。最後に、領土問題担当大臣として相手国への主張を考案する。	イ－①（発表ノート） ウ－①（単元見通しシート）
第4時	学習課題「国際連合は国際社会の中で、どのような役割を果たしているのだろうか。」		
	協調に着目して、国際連合の目的と役割、その課題を理解する。	○　国連の公用語から共通点を見出し、歴史的分野における既習事項や五大国について復習する。 ○　国連の組織や活動について調べ、役割と課題についてＹチャートにまとめる。	ア－①（発表ノート） ウ－①（単元見通しシート）
小単元２　地球的課題とその解決			
第5時	学習課題「紛争や難民の問題は、なぜなくならないのだろうか。」		
	対立と合意に着目して、紛争や内戦、テロの背景には、様々な要因があることを考察し、表現する。	○　紛争が起こっている地域や難民の数から、今もなお紛争や難民が存在することを読み取る。 ○　原因・被害・国際社会の対応の３つの視点から紛争について整理し、これらの問題がなぜ解決しないのかまとめる。	ア－①（小テスト） ウ－①（単元見通しシート）
第6時	学習課題「核兵器の廃絶や軍縮のために国際社会ではどのような対策が必要なのだろうか。」		
	対立と合意に着目して、核抑止の考え方を踏まえて、軍縮を実現するために必要なことを考察できる。	○　「世界にはなぜ核を持つ国と持たない国が存在し、国際社会はどのように対応しているのか」についての情報を協働学習支援ツールにまとめる。 ○　日本がどのような行動をとっていくべきなのか防衛大臣として意見の提案を考える。	イ－①（発表ノート） ウ－①（単元見通しシート）

第7時	学習課題「なぜ、地球環境問題の解決には国際協調が求められるのだろうか。」		
	持続可能性に着目して、地球環境問題の解決に向けて、国際協調のあり方を考察し、表現できる。	○　現象面、背景面、取り組み面の３つの視点から環境問題のつながりを調べ、整理する。 ○　京都議定書とパリ協定を比較し、バタフライチャートにパリ議定書に対する意見をまとめる。	イ－①（発表ノート） ウ－①（単元見通しシート）
第8時	学習課題「国際社会における資源・エネルギーの問題は、どのような変化をしているか。」		
	持続可能性に着目して、資源・エネルギーをめぐる国際情勢やその転換を踏まえ、今後の日本の政策について考察できる。	○　世界や日本のエネルギーに関するクイズから、資源・エネルギー問題について読み取る。 ○　前時の内容と関連付けながら、脱炭素社会に向けた世界の取り組みと日本が目指すべき姿について発表ノートにまとめる。	イ－①（発表ノート） ウ－①（単元見通しシート）
第9時	学習課題「新興国の台頭によって、貧困はどのように変化しているのだろうか。」		
	効率と公正に着目して、国家間の格差の広がりなど、国際社会に与えている影響を理解する。	○　世界の経済構造の変化に関する資料や画像から、ＧＤＰの推移や貿易量の変化、所得格差などを読み取る。 ○　成長の裏に関する課題として、Ｔチャートに発展による良い影響と悪い影響をまとめる。	ア－②（発表ノート） ウ－①（単元見通しシート）
第10時（本時）	学習課題「貧困問題にはどのような背景があり、その解消に向けて、国際社会はどのような取り組みを進めているのか。」		
	協調に着目して、貧困問題の解消に向けて、国際社会はどのような支援や協調をすべきか考察し、表現できる。	○　「スモーキーマウンテン」のクイズから、ゴミの山の中で生活しなければならない人々の存在を読み取る。 ○　豊富な資源が多くあるにもかかわらず、貧困が生まれる理由を考察し、解消への動きをまとめる。	イ－①（発表ノート） ウ－①（単元見通しシート）
第11時	学習課題「唯一の被爆国であり、平和主義を掲げる日本は、国際社会でどのような役割を果たすべきなのだろうか。」		
	協調と持続可能性に着目して、日本の平和主義を踏まえ、国際社会における日本の役割を考察し、表現できる。	○　アフリカの学校などに日の丸が描かれている様子から、日本の世界での役割を予想する。 ○　平和・安全保障、経済援助、環境・エネルギー、文化の４つの視点からマインドマップに整理する。	イ－①（発表ノート） ウ－①（単元見通しシート）
第12時	単元末課題に取り組み、単元を通した学習を整理・分析し、自身の考えを表現する。	○　単元末課題として、「日本政府の代表として国連総会で国際課題を一つ選び、国際社会に向けて提言スピーチを行おう」に取り組む。 ○　単元を貫く問いに対するまとめや学び方の振り返りを、単元見通しシートに記入する。	ア－②（小テスト） イ－①（発表原稿） ウ－①（単元見通しシート）

7　指導に当たって

班テーマ　「単元見通しシートを活用した“学び方の振り返りの仕組みづくり”～自己調整の力と自立した学習者の育成～」の実現を目指し、以下の工夫を行った。

⑴　単元見通しシート

自己調整の力とは、「自らの学習状況を把握し、よりよく学ぶために学習の進め方を調整する力」である。本単元では、自己調整の力を育むために「単元見通しシート」を有効的に活用する。「単元見通しシート」は、単元全体の構成や時間配分を見通しながら、問いを系統的に配置することを目的として作成した。単元導入時に単元を貫く問いを明確に設定し、各時間ではその解決に向けて「社会的な見方・考え方を働かせることができる問い」に取り組むことで、学習の方向性を共有できるようにする。単元のまとめでは、それまでの記述内容や思考の積み重ねを基に、改めて単元を貫く問いに答える流れをつくることで、学びを構造的に振り返ることができるようにする。このシートを活用することで、授業者は単元全体を俯瞰して問いを配置し、生徒の学習の進行や思考の変化を可視化できる。一方、生徒にとっては、毎時間の問いと単元を貫く問いとの関連を意識しながら学習を進めることで、学びの意義を実感し、自己の思考を客観的に捉える力や自己調整の力を高めることができる。本単元では、学び方に関する視点を複数提示し、生徒が自ら重点を選択して学習に取り組めるようにした。また各時間の学習後に４つの観点で学びの進み具合について、１～５の段階で自己評価を行う。小単元の終了時に、これまでの学習の進み具合の評価結果を基に、自分の学び方を文章で振り返る活動を行う。これにより、これまで振り返りが形式的であったり、焦点が曖昧であったりした生徒も、明確な視点の基で学習の見通しをもって取り組むことができるようになり、自分の考えを的確に表現する力を育成していく。

⑵　協働学習支援ツール

本単元では、学習者用端末を活用し、多様な形態の意見交換を授業内外で行える環境を整える。授業中は、整理した内容を学習者用端末で共有し、互いの意見を比較・参照する活動を取り入れる。他者の整理の仕方や視点に触れることで、自分にはなかった見方に気付いたり、考えの根拠を深めたりする機会をつくる。また、授業後にはスライド資料や補助教材を共有し、家庭学習でも学びを継続できるようにする。これにより、生徒は自分の学習の進め方や使用する資料を選択・調整できる機会が増え、計画・実行・振り返りの過程を主体的に担うことができる。単元見通しシートと組み合わせることで、自らの学習状況を客観的に把握し、学び方を改善する自己調整の力を育むとともに、自立した学習者としての意識を高めていく。

⑶　自己調整の力を高める自己選択の機会づくり

本単元では、生徒が自ら学び方を選択できる機会を意図的に設ける。学習者が自ら計画を立て、実行し、振り返る過程を主体的に行うことが、自立した学習者の育成には欠かせない。そこで、本単元では、生徒が「誰と学ぶか」「どのように学ぶか」を自ら判断できるよう、学習環境（個人学習・協働学習・教員との学習）及び学習手段（教科書・学習者用端末等）を選択可能とし、複線的な学習展開を行う。こうした取組により、生徒が自分の学習を主体的にデザインする力を養っていく。

8　本時（全 12 時間中の第 10 時）

⑴ 本時の目標

協調に着目して、貧困問題の解消に向けて、国際社会はどのような支援や協調をすべきか考察し、表現できる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 10 分	○　スモーキーマウンテンのクイズ ・　「ゴミの山を撤去しようとしたら反対運動が起きたのはなぜか」について考える。 ○　アフリカと募金 ・　「アフリカには多くの募金がされているにもかかわらず、貧困率が高いのはなぜか」について考える。	・　フィリピンの発展している地域の写真も提示し、比較できるようにする。 ・　２つの問いを通して、貧しい人の努力や募金だけでは解決が難しいことを理解する。	
	本時の学習課題 「貧困問題にはどのような背景があり、その解消に向けて、日本を含む国際社会はどのような取り組みを進めているのか。」		
	○　本時の学習内容と流れの確認		
展開 30 分	○　貧困をめぐる状況 ・　貧困解決のための国際社会の取り組みと日本が国際社会に今後どのようにかかわっていくべきかを考える。 ・　貧困の「現状」、「背景と影響」、「取組」の３つの視点から、Ｙチャートに調べ、まとめる。 ・　グループワークにより、資料を選択しながら調べ、考察する。 ○　貧困の解消に向けて ・　情報収集を踏まえ、世界の貧困に関する現状に対して、どう取り組んでいくことができるのか考察する。	・　協働学習支援ツールを見ながら、生徒への支援を行う。 ・　生徒へ価値付けを積極的に行う。 ・　使う資料や調べるグループは自由とする。 ・　時間管理やグループワークを始めるべき時間をある程度決め、生徒への声掛けを行う。 ・　生徒の作品を使いながら説明を行う。	イ - ① （発表ノート）
まとめ 10 分	○　本時のまとめと振り返り ・　単元見通しシートに学習課題について自分の言葉でまとめ、本時の学び方について振り返りを行う。	・　適宜モニタリングを行いながら、生徒のまとめの価値付けを行う。	ウ - ① （単元見通しシート）

(3) 板書計画

１月 22 日（木）　第６時　貧困問題とその解消

単元を貫く問い	国際社会の課題を解決するために、我が国はどのように協力していくべきだろうか。
本時の学習課題	貧困問題にはどのような背景があり、その解消に向けて、 日本を含む国際社会はどのような取り組みを進めているのか。 （例）貧困問題は、戦争や経済格差、教育・医療の不足などが原因で起こり、 国際社会は国連や SDGs、ODA などを通じた支援や協力による解決を目指している。

プレゼンテーションソフトを用いて作成したスライドを、白地で黒板に提示する。

(4) 授業観察の視点

ア　本単元における単元見通しシートの内容や活用方法は、「自立した学習者」を育成するために有効なものだったか。

イ　ＩＣＴを活用した活動は、生徒が他者との比較・交流を通じて自らの理解を深める学習のために適切なものであったか。

ウ　本時における資料の精選や生徒が選択する機会は、主体的な学びを実現するために適切な内容であったか。